
4歳児が『桃太郎』を語ったらこうなりました。

みなと

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

4歳児が『桃太郎』を語ったらこうなりました。

【Nコード】

N1214U

【作者名】

みなど

【あらすじ】

4歳児が『桃太郎』を語ったらこうなりました。完全ノンフィクションです。

就寝前、「きょうはMがおはなししてあげる！」と娘（4歳）が語りだした昔話……

娘「むかしむかし、あるところに、桃太郎がいました。ある日、桃太郎は、死んでしまいました」

いい導入だ。

娘「でも、また、桃太郎が生まれました。その後も、桃太郎が生まれました。その後も、桃太郎が生まれました。桃太郎が、40人生まれました。桃太郎がいっぱい生まれたので、おじいさんとおばあさんはびっくりしました」

もうほとんど呪いの領域。

娘「その後も、桃太郎はいっぱい生まれて、1おくまんの桃太郎が生まれました」

この時、娘、呪文を唱えるような気迫をこめて1おくまん、と強調してましたが……（息子が「そんな数ないよ！」と何度言っても聞かない娘。）1億と言いたいのか？ 日本人のほとんどが桃太郎！？

娘「桃太郎はいっぱいいたほうがいいのです。なぜなら、オニはとくってもつよいからです」

私「なるほど」

娘「1おくまんの桃太郎は大きくなって、オニたいじにいくことにしました。おばあさんは、きびだんごをつくりました」

私「おばあさん大変だ！ 1おくまんを1人で作ったの？」

娘「でも、おばあさんはつかれませんでした」

息子「まほうが使えたんだ！ それか手品」

娘「ちがいます。まほうのきかいをもっていたのです」

私&息子「同じじゃん！」

娘「桃太郎がたびをしていると、サルがやってきて、きびだんごをくださいと言いました。桃太郎は、あげました」

私「サルは1おくまんの黍団子をもらったの？ サルおなか壊しちゃうねw」

娘「サルは、赤い桃太郎にだけもらいました」

……赤い桃太郎ww

どうやらいろんな色の桃太郎がいる模様。

私「1おくまんの中で、赤い桃太郎って何人いるの？」

娘「4人」

息子「少ないな！」

娘「青い桃太郎は1人しかないの。青い桃太郎はすごくつよい。たいりよく1おくで、こうげきりよく1おく！」

私「ふんふん、それから？」

娘「サルが仲間になりました。つぎに、キジがきました。キジは、青い桃太郎からきびだんごをもらいました。キジが、仲間になりました。サルとキジは、なかよくあそびました」

あれ、イヌは？

娘「そのとき、オニがでてきました！ でも、よわいオニだったので、すぐやつけました」

私「ああ、よかった」

娘「また、オニがでてきました！ ボスのいちばんつよいオニです！ でも、1おくまんの桃太郎と、サルと、キジは、がんばってたたかって、とうとう、つよいオニをやっつけました」

うむ、多勢に無勢。1億で群がったら確かにどんな敵にも勝てそう
だ。

娘「こうして、1おくまんの桃太郎と、サルと、キジは、たからものをとりかえして、おばあさんのところへもどっていきました。めでたしめでたし」

イヌはリストラされたようです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1214u/>

4歳児が『桃太郎』を語ったらこうなりました。

2011年6月18日23時53分発行